

# News Release

2021年07月26日

この資料は BASF 本社(ドイツ)が 2021 年 07 月 21 日に発表した英語のプレスリリースを BASF ジャパンが日本語に翻訳・編集したものです。

## BASF とポルシェ、電気自動車用高性能リチウムイオン電池の開発で提携

- BASF、ポルシェの高性能車向けに高容量 HED™ 正極材を独占供給
- BASF、Cellforce Group からのセル製造時廃棄物のリサイクルで循環を実現

BASF(本社:ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン)は、ポルシェ AG(本社:ドイツ)と Customcells 社(カスタムセルズ、本社:ドイツ)の合併会社である Cellforce Group(セルフォース・グループ、本社:ドイツ)の、次世代リチウムイオン電池の独占的なセル開発のパートナーとして選ばれました。今回の提携の一環として、BASF は高容量 HED™ NCM 正極材を提供し、急速充電と高エネルギー密度を実現する高性能電池セルに貢献します。この高性能電池は、ドイツのチュービンゲンに拠点を置く Cellforce Group が製造します。2024 年に稼働を予定している同社の電池生産工場は、年間 100MWh 以上の生産能力を初期に備え、1,000 台のモータースポーツ車両および高性能車用電源を供給していきます。

強力な研究開発ネットワークを持つ高性能正極材の世界的大手サプライヤーである BASF は、パートナーの皆様と協力して循環型経済に貢献するうえで、理想的な立場にあります。BASF はフィンランドのハルヤヴァルタにある前駆体生産工場と、ドイツのシュヴァルツハイデにある正極材生産工場を有しています。安定的で信頼性の高い原材料の調達を行うことで、持続可能性に優れた電池材料を提供し、2022 年にはサプライチェーンにおける最小のカーボンフットプリントを実現することを目指しています。

BASF ジャパン株式会社  
住所: 〒103-0022  
東京都中央区日本橋室町 3-4-4  
OVOL 日本橋ビル 3 階  
TEL: 03-5290-3000  
FAX: 03-5290-3333  
<https://www.basf.com/jp>

この資源循環を実現するため、Cellforce Group の電池工場で製造時に排出される廃棄物は、ドイツのシュヴァルツハイデにある BASF の電池リサイクルの試作工場で再生利用される予定です。リチウム、ニッケル、コバルト、マンガンは、湿式製錬プロセスでリサイクルされ、BASF の正極材の製造プロセスで再び使用されます。

BASF 取締役会メンバーである Dr. マーカス・カミートは、次のように述べています。「ポルシェおよび Cellforce Group と連携し、将来に向けた電気自動車用高性能電池を開発して、持続可能なモビリティという共通の目標に向けて協力することを楽しみにしています。BASF の正極材は、当社の強力な研究開発力を活用し、ポルシェ独自のニーズに合わせて製造されます。さらに、効率的な製造プロセス、再生可能エネルギーの比率の高さ、主要原料確保における垂直統合、バリューチェーンにおける効率的な輸送ルートにより、業界トップクラスの二酸化炭素排出量低減を実現します。電池をリサイクルすることで、貴重な材料を生産ループに残すことが可能になり、正極材のカーボンフットプリントを最大 60%削減できると予想しています。」

ポルシェ AG 研究開発担当取締役であるミヒャエル・シュタイナー (Michael Steiner) 氏は、次のように述べています。「自動車メーカーであるポルシェは、2030 年までにバランスシート上でのカーボンニュートラルを目指しています。そのため、カーボンフットプリントの削減、クローズドループリサイクル、そしてサステナビリティがますます重要な要素となります。BASF との提携は、あらゆる関係者にメリットをもたらします。ニッケルとコバルトのヨーロッパでの調達先、それに伴う供給の安定性、ドイツのシュヴァルツハイデからバーデン=ヴュルテンベルク州までの効率的な輸送ルート、これらすべてが BASF との提携を決定するうえで重要な要因となりました。今回の検討内容で中心となったのがバッテリーセル、特に正極材です。BASF と協力して、環境に優しいセル技術を連続生産可能な状態にできることを、大変うれしく思います。」

Cellforce Group のマネージングディレクターであるマーカス・グラーフ (Markus Gräf) 氏は次のように述べています。「正極材に関する深い専門知識を持つ BASF は、セル開発の中心となる部分で私たちをサポートしてくれています。BASF の正極材は、最初から非常に高いサイクル安定性を示し、特に急速充電に優れています。これはまさに Cellforce Group が求めていた特性です。BASF は、正極材を次世代シリコン系負極の要件に適応させることにも、非常に力を入れています。また、生産の分野においても、BASF と共同で、各エリアで発生する廃棄物を回収し、クローズドループリサイクルを実

現させるためのコンセプトを策定しました。これがコスト削減や、資源、環境の保全につながります。」

※このプレスリリースの内容および解釈については英語のオリジナルが優先されます。

#### ■BASFの触媒事業本部について

BASFの触媒事業本部は、環境触媒とプロセス触媒の世界的なリーディング・サプライヤーです。同事業本部は、私たちが呼吸する大気の保護、生活を支える燃料の製造、先進のバッテリー材料などを含む多岐にわたる化学品やプラスチックの効率的な生産を支える技術開発で卓越した専門知識を提供します。BASFの業界をリードする研究開発プラットフォーム、技術開発への情熱、貴金属とベースメタルへの深い知識を活用することで、触媒事業本部は、独自のソリューションを開発し、顧客の成功をサポートしています。BASFの触媒事業本部についての詳細は、インターネットホームページ[www.catalysts.basf.com](http://www.catalysts.basf.com)をご覧ください。

#### ■BASFについて

BASF(ビーエーエスエフ)は、ドイツ ルートヴィヒスハーフェンに本社を置く総合化学会社です。持続可能な将来のために化学でいい関係をつくることを企業目的とし、環境保護と社会的責任の追及、経済的な成功の3つを同時に果たしています。また、全世界で110,000人以上の社員を有し、世界中のほぼすべての産業に関わるお客様に貢献できるよう努めています。ポートフォリオは、6つの事業セグメント(ケミカル、マテリアル、インダストリアル・ソリューション、サーフェステクノロジー、ニュートリション&ケア、アグロソリューション)から成ります。2020年のBASFの売上高は590億ユーロでした。BASF株式はフランクフルト証券取引所(BAS)に上場しているほか、米国預託証券(BASFY)として取引されています。BASFの詳細な情報は、<http://www.basf.com>をご覧ください。